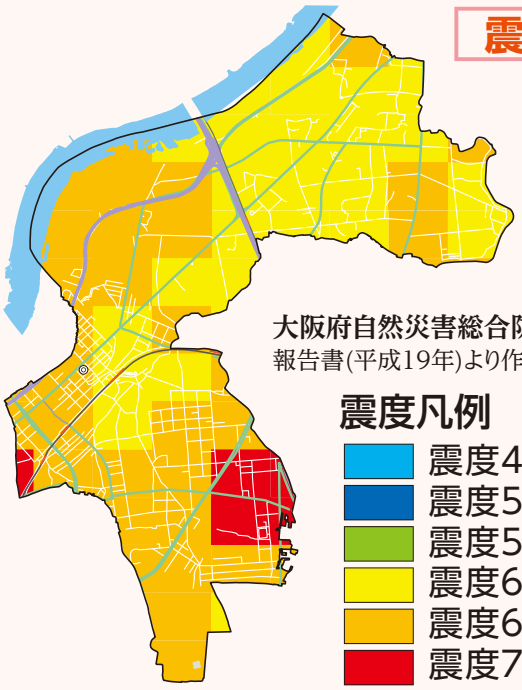
上町断層帯地震A

震度分布図



大阪府自然災害総合防災対策検討(地震被害想定)
報告書(平成19年)より作成

震度凡例
- 震度4以下
- 震度5弱
- 震度5強
- 震度6弱
- 震度6強
- 震度7

上町断層帯地震Aは上町断層帯の北中部を震源として発生する地震です。

■守口市における被害想定

上町断層帯地震A
(発生確率30年以内で2~3%程度)
(国の地震調査研究推進本部による評価参照)
H27.1.1時点

項　目	被害想定	項　目	被害想定
守口市域の震度	5強~7	死者数	520人
全壊棟数	10,512棟	負傷者数	3,385人
半壊棟数	8,379棟	最大避難者数　避難所	24,805人

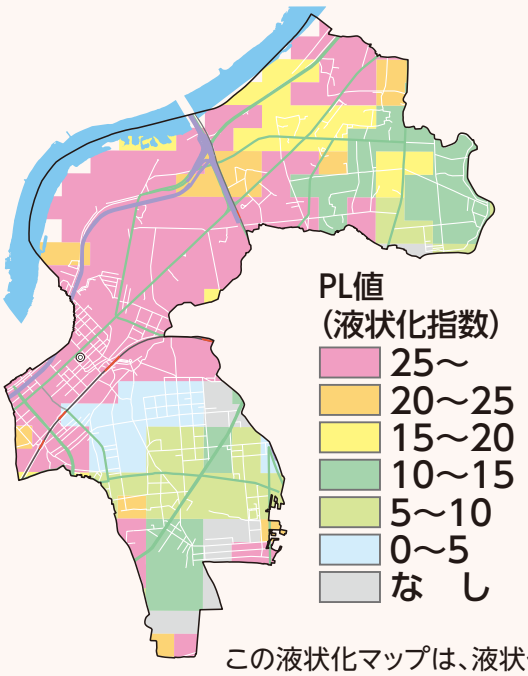
南海トラフ巨大地震

南海トラフ巨大地震は「東海」「東南海」「南海」の3つの地震が連動した場合の最大規模の被害を想定した地震です。
守口市は全域震度6弱分布のエリアとなります。

項　目	震度・被害想定	項　目	被害想定
最大震度	6弱	死者数	100人
津波浸水面積	0.0 ha	負傷者数	1,554人
全壊棟数	22,379棟	最大避難者数 避難所	36,781人
半壊棟数	9,489棟		

■守口市における被害想定

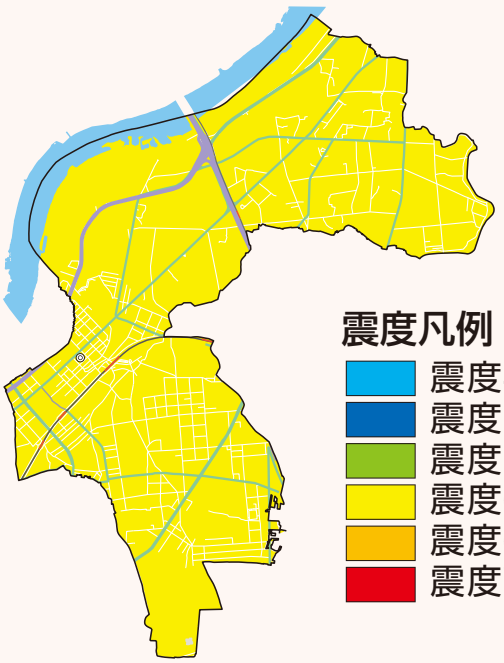
南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会
(大阪府防災会議)資料(平成25年、26年)より作成



PL値
(液状化指数)
- 25~
- 20~25
- 15~20
- 10~15
- 5~10
- 0~5
- な　し

液状化

この液状化マップは、液状化の起こりやすさ起こりにくさを地図上に色分けして示したものです。PL値(液状化指数)が高いほど液状化が起こりやすく、建物の損傷が軽微でも基礎がぐらつく危険があります。



震度凡例
- 震度4以下
- 震度5弱
- 震度5強
- 震度6弱
- 震度6強
- 震度7

震度分布図

南海トラフ地震臨時情報　情報の種類と発表条件

気象庁では、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時に比べて相対的に高まったと評価された場合等に、「南海トラフ地震臨時情報」や「南海トラフ地震関連解説情報」を発表します。

情報名	キーワード	情報発表条件
南海トラフ地震臨時情報 防災対応がとりやすいようキーワードを付して情報を発表します	**調査中**	観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
	巨大地震警戒	**巨大地震の発生に警戒が必要な場合** 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において Mw（モーメントマグニチュード）※ 8.0 以上の地震が発生したと評価した場合
	巨大地震注意	**巨大地震の発生に注意が必要な場合** 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において Mw7.0 以上 Mw8.0 未満の地震や通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合等
	調査終了	（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合
南海トラフ地震関連解説情報		観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし臨時情報を発表した場合を除く）

※Mw（「モーメントマグニチュード」）とは…　地震の規模を断層面の面積・すべり量等から算出したもので、マグニチュードに比べ、計算に時間がかかりますが、巨大地震でも正しく規模を求めることができます。

日頃からの地震への備え、個々の状況に応じた防災対応

気象庁から南海トラフ地震関連情報が発表された場合に、これらの日頃からの地震への備えを再確認し、地震が発生した場合に速やかに必要な防災対応が行えるようにしておく必要があります。

日頃からの地震への備えの再確認

- 家具の固定の確認
- 家族との安否確認手段の確認
- 避難場所・避難経路の確認
- 家庭における備蓄の確認

個々の状況に応じた防災対応

- すぐに避難できる準備（非常持出袋等）
- 転倒、落下物等のない安全な部屋で過ごす
- 親戚・知人宅への自主避難

震度と揺れ等の状況

出典元：気象庁「気象庁震度階級の解説」

0

人は揺れを感じない。

1

屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。

2

屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。

3

屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。

4

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

5弱

- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

5強

- 物につかまらないと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性が低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

地震

地震発生、その時どうする?

●地震が起こったときの行動　グラッときたら、まずは自分の身を守る…

1.まずは自分の身を守りましょう	2.すばやく火の始末を	3.家具や棚から離れる	4.窓や扉を開けて出口を確保	5.あわてて家の外に飛び出さない	6.門や塀 自動販売機には近寄らない
丈夫な机やテーブルの下にもぐり、脚を持って揺れがおさまるのを待ちましょう。	揺れが激しい時には無理をしない。	タンスやテレビが転倒し、負傷しないために離れる。事前に転倒防止措置をしておく。	余震によりドアがゆがんだりして開かなくなるため。	瓦やガラスなどの落下物による負傷をさけるため。	門や塀などが倒れてくる危険があるため。

●自宅編

台所では…

まずはテーブルなどの下に入って身を守り、揺れがおさまってから火を消しましょう。

寝室では…

ベッドの下に入るか、布団や枕で頭を守り家具が倒れてこないところで身を伏せましょう。

浴室では…

あわてて飛びださず、ドアを開けて出口を確保しましょう。

トイレでは…

比較的安全な場所と言われていますが、ドアを開けて出口を確保しましょう。

●外出編

職場では…

ＯＡ機器やキャビネットなどから離れ、頭部を保護して机の下にもぐりましょう。

学校・塾では…

教室では机の下などに隠れます。体育館や運動場では真ん中に集まってしゃがみます。

デパート・スーパーでは…

バッグや買い物かごなどで頭部を保護し、ショーケースから離れます。係員の指示に従います。

地下街では…

バッグなどで頭部を保護します。停電になっても非常灯がつくまで動かないようにします。

家の周囲では…

屋根からの瓦や窓ガラスの破片など落下物に注意しましょう。

エレベーターでは…

全ての階のボタンを押し、最初に止まった階でおります。動かない時は非常用連絡ボタンを押します。

電車・バスの中では…

姿勢を低くして頭部をカバンなどで保護します。

山・丘陵地では…

まずは、落石から身を守りましょう。崖や急傾斜地などから、できるだけ離れましょう。